

---

# 彼女と俺の恋前線

夏目柚

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

彼女と俺の恋前線

### 【Nコード】

N20350

### 【作者名】

夏目柚

### 【あらすじ】

「どう？　今回のお話もなかなかだと思っの」  
教室がオレンジ色に染まる頃。彼女との思い出に浸る。18歳の最後の高校生活だった。

俺こと『藤間俊助』は美術部員として最後の作品に取り掛かっていた。だが、それを阻止するものがいた。

2年の美少女、名前は…。

「私の名前は梅花よ。梅の花って書くの…貴方の」  
ずっと一緒にいたい相手がいますか？

切なくて、緩やかな恋愛模様。

## エピローグ

彼女と出会わなかったら、俺はどういう人生を歩んでいたのだろうか。

それを、思ったたびに、俺はなぜか笑いが止まらなかった。

なぜなら、あいつと会わなければ、俺は今頃億万長者だったからだ！  
「どう？ 今日のお話も面白いでしょ？」

彼女はいつも妖艶な笑みで俺に言う。桃色の唇で俺に何でも話す。色々な物語を、話すのだ。一つ一つ丁寧に、それでもって、感情的に…。

彼女と出会ったのはいつだろうか？

桃色の花びらが舞っている時か？

太陽が俺を殺そうとする時か？

味覚を楽しめる時か？

寒さで死にそうになる時か？

彼女と出会ったのは突然だった気がする。

俺の前にいきなり出てきて、それでもって俺の人生をぐちゃぐちゃにした。だけど、憎めない。憎めないのだ。なぜだろう？

それは、歪で形ではなかったから。

それを、俺は『恋』と呼ぶ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2035o/>

---

彼女と俺の恋前線

2010年10月9日00時23分発行